

## 土岐市水道事業及び下水道事業経営審議会 議事録（概要版）

日時：令和7年9月26日（木）14：00～15：45

場所：土岐市役所 3階 大会議室3AB

出席者：太田 幸治、森川 朋美、玉樹 智文、河合 三男、酒井 良郎、  
加藤 大祐、伊藤 圭子、松本 芳子、大橋 知成、吉本 恵一

事務局：加藤建設水道部長、堀部上下水道課長兼浄化センター所長、  
山田課長補佐、小栗副主幹兼経営係長、横田計画係長、加知、渡邊

オブザーバー：オリジナル設計株式会社

（「開会のあいさつ」から「諮問」まで省略）

（会長挨拶）

会長：では、議事に入りますので、皆様の協力をよろしくお願いします。諮問を受けた議事について、事務局からの説明をお願いします。

（諮問内容説明）

事務局：土岐市長より当審議会に諮問されました案件は「土岐市下水道事業計画認可の見直し（案）」についてです。詳細につきましては、担当者から説明させていただき、ご意見、ご質問に関しては、説明後でお願いいたします。それでは担当者から説明いたします。

（土岐市下水道事業計画認可の見直し（案）の説明）

会長：提案を今事務局からいただきました。ただいまの説明でご意見やご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

委員：説明の時に法令の条文をつけていただけるとありがとうございます。

2点目ですが、人口についての今後の見積がありますが、今までの計画において実施の人口とのギャップがどれくらいあったかを考慮に入れて算出されたのかということ。

あと、管渠について耐用年数50年と言われましたが、実際のところ耐用年数50年経っていないところでも管渠の老朽化で修繕を行われた実績はあるのか。

事務局：計画人口は汚水処理施設整備構想の中で想定しております。汚水処理施設整備構想の中で見積もった人口は社人研（国際社会保障・人口問題研究所）の想定をもとにしています。（この想定を）実績と比較をした結果、（他の人口予測に比べて）最も近い想定となっていたため、今後の想定においても採用しています。

続きまして、管渠について耐用年数を迎える前に破損したものがあったかどうかですが、実際にございます。硫化水素が発生する箇所においては特に傷むスピードが上がっていきます。埼玉県八潮市においても50年経過する前にあのように破損しております。やはり、耐用年数ということにとらわれることなく、特に流量が多いようなところや伏越と言いまして、河川をくぐっていくようなところ、マンホールポンプが圧送する吐出口はどうしても硫化水素が発生しやすくなるので重点的に事故が起こらないように点検を続けているところです。

委員：人口減についての話をなぜ聞きたかったのかというと計画見直しの部分の事業費に絡んでくるからです。あまりにお手盛りの計画をしている場合だと汚水量の算定等をする場合に（計画と実績の）事業費のギャップが出てくるので聞かせていただきました。

あと、事業費について物価の上昇率はどれくらい見積もっていますか。

事務局：事業費は今の整備面積をこれまでの整備にかかった事業費で割って、単位事業費を算出し、新たに整備する面積にかけて算出しています。よって、物価上昇率を見込んでいるというよりはこれまでの事業費を平均化して算出しているものです。

委員：56 億円の増加となってますので今後の工賃及び材料費が上がることになる  
と、これをまかねるのかなというのを実感的に思いますね。そうなれば、予算の  
範囲内で事業計画において工事できる部分を少なくしていくのかというところが  
あるのかもしれません、事業費の算定根拠が出ていないものですから、もう少し  
詳しく計算の根拠を出していただきたいなと思います。

あと一つ、病院の話がありまして、先行で（工事が）進んでいるんですが、（区  
域外流入協力金を）受益者負担金の代わりにいただいているということですけれど  
も、過去の大規模開発においても同じように計算されて（区域外流入協力金や受益  
者負担金を）いただいているということでよろしいですね。

事務局：その通りです。

委員：ありがとうございました。

会長：ご意見はありましたが、反対意見ではございませんでしたね。補足資料が必  
要というようなお話をしたのでしたので、「土岐市下水道事業計画認可の見直し  
(案)」につきまして、原案を適当として市長に対し答申したいと思いますが、よ  
ろしかったでしょうか。

(出席委員より意見なし)

会長：市長からの諮問については原案を適当として、答申したいと思います。

(休憩)

会長：続きまして、その他事項として下水道事業経営戦略の改定についてです。事  
務局からの説明をお願いいたします

(土岐市下水道経営戦略の改定の説明)

委員：地震対策を効率的、効果的に進めますという部分と老朽化対策ってあるんですけど、ストックマネジメント計画って何でしたでしょうか。補足で少し説明してもらいたという部分と、地震の対策が書いてあるんですけど、集中豪雨とか雨水対策は、今後どのようにやっていくのかというのが温暖化で（異常気象が顕著になっており）気になります。（どうやって）災害に強い強靭な下水道にしていこうということです。あと、今処理場自体がもう築何年でしたでしょうか。結構経ってますよね。築40年ですか。昭和60年に供用開始しているのでそれからですね。だから本当に実際にいつまでもつのか。（事業計画の）5年はこのまま維持改良してやっていきますか、その後は関係ないかもしれないけど、年数的に経ってるんでどうかなっていう（心配な）部分があります。

事務局：ストックマネジメント計画は現在見直しを行っているところでございまして、これから二期の計画を策定していくことです。ストックマネジメント計画は管渠と処理場の長寿命化計画です。その中で壊れてから直すのではなく、先に予防保全を行うことで、（完全に）壊れる前に手を加えて長寿命化することで、（完全に）壊れてから直すよりも、よりコストを縮減できるようにするというものです。地震対策計画の方につきましては、こちらの方も管渠と処理場に対して対策を行っている計画で、これも優先順位をつけて行っているというものでございます。雨水については（施設が）まだ新しいのでストックマネジメント計画はございません。雨水（浸水対策）につきましては耐水化計画というのがございまして、大雨が降った時の処理場の浸水想定区域から対策を行っているところでございます。同時に、ソフト対策も行っておりまして、それらも雨水出水浸水想定区域というんですけども、想定最大出水があった時の浸水区域を想定しまして、市民の方々に避難、もしもの時は避難していただけるように、どの地域が何メートル、何時間浸水するんだというところを市民の皆さんにお示しするように準備しております。

さらに今のお話を補足させていただきますと、今年度、洪水ハザードマップの見直しを行うところです。最近で言いますと、四日市の駐車場が（浸水で）大変なことになりました。あのような事態を招かないために、耐水化の整備というのも同時に進めているところです。

委員：最近の（集中豪雨時の）雨量ってすごいじゃないですか。1時間当たりどのくらい、何ミリ降るくらいまで耐えうるのかとか、計画としてはどういう想定で今やってるのかっていうのはいかがでしょうか。

事務局：洪水ハザードマップで見込んでいるのが1時間当たり150ミリくらい見込まれますが、それが降り続ければ浸水のエリアが広がっていくことになりますので、非常に分かりにくいところではあるかと思います。昔と比べると水害も起きやすくなっています。それに対してどうするかというところで、最近で言うと、防災計画の避難等の見直しも国からあります。それから市の中で言いますと、早期の避難準備について取組を強化して、あの減災につなげていくという流れで動いているところでございます。

会長：その他にご意見、ご質問はございませんか。

（出席委員より他の意見、質問はなし）

会長：皆様のご協力により、議事を円滑に進めることができました。ありがとうございました。

ここで進行役を事務局にお返ししたいと思います。

幹事：（閉会のあいさつ）